

ACL 損傷治療 2009

史野 根生

大阪府立大学 総合リハビリテーション学部

損傷された ACL の自然治癒は時に散見されるが、殆どの症例では再建術による治療が必要となる。近年、断端の消失した陳旧例においても確実な正常靭帯付着部の鏡視による同定が可能となった。また、正常靭帯内各線維束の靭帯付着内びおける付着部位も明らかとなり、正常靭帯内線維配列を模倣した再建術が可能となった。それに伴い、自家ハムストリング筋腱、骨片付き膝蓋腱のいずれを用いた術式においても、その近隔成績は極めて良好なものとなった。

しかしながら、殆どの例が損傷前のスポーツ活動に復帰するため、再損傷例が増加するなどの問題点が無い訳ではない。今後、より早期の再建靭帯治癒を目指したりハビリテーションや再損傷予防プログラムの確立などが課題である。